

# 社協・生活支援まちづくり Report

## (第1号)

2014(平成26)年8月4日 宮崎県社会福祉協議会

県社協では、今年度から「社協・生活支援活動強化方針」の具体化を図るため、第4次経営基盤強化推進計画(平成26年度～平成30年度)に「社協・生活支援まちづくり強化プロジェクト」(以下「プロジェクト」という。)を位置づけ、社協の生活支援活動の強化を図る本格的な取組を開始しました。

本プロジェクトは、県社協と市町村社協が協働して地域の多様な生活課題を受け止め、地域に即した創意と工夫による相談・支援や解決につなげる取組を検討・強化することにより、誰もが安心して暮らすことができる福祉のまちづくりの実現に寄与することを目的としています。

そこで県社協では、本プロジェクトの取組内容を「社協・生活支援まちづくり Report」として作成し、今後県内市町村社協へ随時情報提供することにより、市町村社協との情報共有や市町村社協における取組強化の一助にしていきたいと考えております。

### 動き始めたプロジェクト ～第1回推進会議～

平成26年7月11日(金)、県福祉総合センターにおいて第1回社協・生活支援まちづくり強化プロジェクト推進会議(以下「推進会議」という。)を開催しました。推進会議は、プロジェクトのアドバイザーである九州保健福祉大学川崎順子准教授、社協・生活支援まちづくり強化モデル事業実施社協(都城市高崎支所、高鍋町、日之影町の3社協、以下「モデル事業実施社協」という。)、国の生活困窮者自立促進支援モデル事業実施(予定)自治体の社協及び県社協で構成しています。第1回目目の推進会議は、プロジェクトの目的やモデル事業の基本的なプロセス、モデル事業実施社協による事業展開、個別支援や地域支援のためのアセスメントシート等について参加者全員で共有しました。



(第1回推進会議の様子)

### 県社協と市町村社協の協働による新たな取組

推進会議は、はじめに県社協からプロジェクトの概要と基本的なプロセス等について説明を行いました。プロジェクトは、モデル事業等を通して、①生活に困っている人々の早期発見・把握と問題解決へつなげる個別支援の展開、②住民や専門職と協働した個別支援の取組を通じて、地域住民の意識と態度の変容を図り、地域社会の中で暮らし続けることができる地域づくり、をめざしています。特に個別支援については、制度の狭間の問題や制度では対応できない問題への対応を中心に個別支援の強化に取り組むこととしています。また、こうした個別支援の事例の蓄積をとおして地域における具体的な支え合いの仕組みなどを計画化する「地域支援計画」を作成し、同計画に基づいた地域支援を実施することとしています。まさに個別支援から地域支援までを一体的に行う取組ですが、これらを県社協と市町村社協が協働して展開する

こととしています。

推進会議ではその後、各モデル事業実施社協から事業実施内容についてプレゼンテーションをしていただきました。モデル事業は、①総合相談事業、②関係機関とのネットワーク構築事業、③住民参加による地域生活支援事業、の3つの柱をもとに、各社協がそれぞれの地域に見合った事業を企画立案し、取り組むこととしています。

各社協が取り組む事業概要は次のとおりです。

#### 《都城市社会福祉協議会高崎支所》

「伴走からゴールまで」の総合相談支援活動を目的に、常設の相談支援体制を充実させ、生活福祉資金や日常生活支援事業等からニーズの掘り起こしを行い、個別支援を展開していきます。また、精神障がい者親の会と協働して就労体験を行う場（コミュニティ・カフェ）をつくったり、生活支援サービス（買い物、ゴミ出し、移送、電球の交換等）を開発検討するなど、地域生活支援の仕組みづくりに向けた取組を強化します。

#### 《高鍋町社会福祉協議会》

これまで地域包括支援センターや基幹相談支援センター、居宅介護支援事業所等事業ごとに相談を受けていましたが、このモデル事業では複合的な課題や家族の抱える課題をきちんと受け止めるため、生活支援コーディネーター（仮称）を配置し、各相談事業で上がってきた課題を社協全体で支援できるようにコーディネートする体制を整備します。また、低所得世帯の子どもへの学習支援として、サポート&スタディ「社協塾」という事業を新たに行います。

#### 《日之影町社会福祉協議会》

日之影町社協では、住民からの相談があればいつでも職員同士でその課題解決に向けた協議や対応が日常的に行われていますが、このモデル事業では相談支援プロセスの標準化やニーズ発見機能の強化等に取り組むことにしています。また、自治公民館を基礎に地域福祉活動の取組をすすめたり、サロンなどの活動拠点を整備し、社協の建物や設備などを活用した中間的就労の場づくりなども計画しています。



（モデル事業実施社協によるプレゼンテーション）

また、本プロジェクトでは、市町村社協における個別支援や地域支援の実践に活用するアセスメントシート等の様式を整備することとしています。推進会議では、日本社会福祉士会が開発した「生活支援アセスメントシート」や、兵庫県宝塚市社協が使用している地域支援の様式を提示し、当面モデル事業実施社協で実際に使用しながら改良の必要性などを検討し、様式の整備を行うこととしています。

#### 次回の推進会議

次回の推進会議は、10月に予定しています。内容は、各モデル事業実施社協における個別支援の事例検討、地域支援計画の作成、アセスメント様式等の検討等について協議を行います。その間、県社協ではモデル事業実施社協を訪問し、当該社協との協議を重ねながら、プロジェクトの着実な推進を図っていくこととしています。

市町村社協の皆様、これからの取組にぜひ注目してください！！

推進会議は、モデル事業実施社協以外の社協につきましても今後出席可能としたいと思えます。その際は文書にて御案内しますので、是非御参加ください。